

## 図書館・公共施設の環境整備として進む、 即効性のある情報アクセシビリティ

— 生成 AI 活用読書器『快速よむべえ』が支える、アクセシビリティに配慮した公共空間の拡大 —

よむべえが環境整備を通じて実現する、誰かの支援を待たなくても、必要な情報に出会える場所



全国の図書館をはじめとする公共施設では、「誰にとっても等しく情報に触れられる場所」であることを目指し、これまで点字図書や音声資料の整備、対面でのサポートなど、視覚に障害のある方に配慮したアクセシビリティ環境づくりの努力が積み重ねられてきました。

株式会社よむべえ（東京都台東区：代表 新井利貴也）は、こうした現場の取り組みを基盤としながら、文字情報を単に音声化するだけでなく、その場で内容に応じた読み方を可能にする音声読書器『快速よむべえ』の導入を推進しています。

本取り組みは、単なる機器提供にとどまらず、地域全体の情報アクセス環境を前進させる社会貢献活動として位置づけています。

## アクセシビリティに配慮された”場所”としての公共施設の価値向上へ

扱う情報量の増加や多様化に対し、すべての資料の音声版・点字版を施設として備えることには難しさがあります。

一方で、“印刷物のまま情報にアクセスできる設備を整える”といった視点を持つことで、事前の整備に依存せず、施設全体のアクセシビリティを高めていくことが可能になります。

アクセシビリティの考えにおいて当社は、個人の自立した活動を尊重し、空間や設備そのものが自然に利用しやすく整えられていることが重要だと捉えています。

音声読書器『快速よむべえ』は、その考え方を日常的に機能させる環境設備を補完します。

## 導入によって生まれる、施設環境の変化

快速よむべえが導入されることで、施設は、事前にすべての資料を整備していなくても、その場にある印刷物を誰もが音声で確認できる環境を備えることが出来ます。

これにより、

- ・情報アクセスのタイミングに制約のない環境
- ・特定の支援に依存しない、安定したアクセシビリティが空間として確保される
- ・「読めないから諦める」状況が起こりにくい利用体験価値の向上に繋がる

といった変化が生まれます。

こうした変化は、施設そのものの価値を高め、誰にとっても利用しやすい公共空間へと進化させていくものです。

## ふるさと納税を活用した、継続的な環境整備

当社では、企業版ふるさと納税制度を活用し、予算制約のある中でも自治体・施設に無理のない形で生成AI活用読書器『快速よむべえ』を公共施設・図書館へ導入し、アクセシビリティに配慮した公共空間の拡大に取り組んでいます。

支援技術に知見のある企業が、自治体や施設と連携しながらアクセシビリティという社会課題の解決に直接かかわることは、単なる資金的な支援に留まらず、現場の課題や利用実態を踏まえた形で専門性を活かした環境整備に参画できるという点で、大きな社会意義を持ちます。

また、本制度を通じた導入は、一時的な実証やイベントで終わるものではなく、設備として施設に備えられ、地域の中で日常的に使われ続ける取り組みとなります。  
こうした持続可能な社会貢献の循環が生まれています。

その結果、アクセシビリティに配慮された公共空間が地域に定着し、「その場所に行けば誰もが情報にアクセスできる環境」が、持続的に広がっていくことに繋がります。

企業版ふるさと納税を活用した寄贈実例

- ・ 県立長野図書館及び長野盲学校、松本盲学校
- ・ 日野市立中央図書館

## 今後の展望

今後も当社はその規模に関わらず、施設の利用実態や地域特性を踏まえた導入支援を継続し、予算やスペースが限られる中でも「まず一つ、情報アクセスの環境を整える」という一歩から、アクセシビリティに配慮された公共空間の拡大を行ってまいります。

さらに、導入後の活用状況や利用者の声を踏まえながら持続可能な運用を進めるとともに、視覚障害当事者の声を反映した検証とアップデートを通じて、誰もが情報にアクセスできる地域社会の実現に貢献してまいります。

本リリースに関するお問い合わせ先

**株式会社よむべえ**

東京都台東区浅草橋1-35-7-501

電話： 050-1791-2070

メール： [info@yomube.co.jp](mailto:info@yomube.co.jp)

快速よむべえシリーズ

<https://www.yomube.co.jp/product/visual/yk/>



コーポレートサイト

<https://corp.yomube.co.jp/>

